

令和5年12月立山町議会定例会一般質問・質疑通告概要

(令和5年12月11日)

○ 一般質問・質疑順番

1番	松	倉	勝	実	議員
2番	髪	口	清	隆	議員
3番	後	藤	智	文	議員
4番	澤	井	峰	子	議員
5番	広	島	秀	一	議員
6番	平	井	久	秋	議員
7番	堀	田		努	議員
8番	村	上	紀	義	議員

<一般質問>

1番 松 倉 勝 実 議員

1 マイナンバーカードについて

私は、今世紀最大の行政改革と信じる。町長の思いは、常々聞いており9月議会でも熱意を感じた。

- (1) 今後の目標普及率の設定とその決意を伺う。
- (2) 立山町におけるカード利用状況を伺う。
 - ① 本町の利活用の実態を伺う。
 - ② 独自の自治体アプリ導入について伺う。
 - ③ 今回の非課税所帯への7万円の給付には利活用するのか伺う。

2 小中学校の夏休み期間について

この夏は、過去最高の猛暑で8月平均気温30度超え今後、この傾向は来年以降も同様といわれている。夏休み期間が8月1日～28日と少ないと感じた。熱中症で登下校時に亡くなる事例を未然に防ぎたい。

- (1) 夏休み期間の日数の是非について伺う。
- (2) 夏休みの期間設定は、どの様にして決定されるのか伺う。

3 小中学校学校図書について

- (1) 図書の利用状況について伺う。

- (2) 学校図書の蔵書実態と新刊購入の実態について伺う。
- (3) 視聴覚ブース新設の是非について伺う。
- (4) 図書室の充実と活性化について今後の対応を伺う。

4 町営バスについて

我が町の町営バスについて、町民は知らないことが多い。この場を借りて、周知と実態把握を図りたい。

- (1) 本町の利用状況について伺う。
- (2) 回数券、定期券の詳細について伺う。(全ての路線に適用されるのか等)
- (3) 利用者への路線情報、PRの強化について伺う。
- (4) 予約乗り合い、デマンド型交通について検討されているのか伺う。
- (5) 路線上、任意の位置で乗り降りできる。いつ実施されたのか伺う。
- (6) 上記の件、住民へは周知されているものの、実際は知らない人が多いと感じる。再度周知を請う。

2番 髪口清隆 議員

1 消防の運用について

令和5年4月1日から立山町と富山市との消防指令業務の共同運用が開始されている。

- (1) 昭和48年に現在の消防庁舎が完成し運用され、50年経過している。老朽化が原因で、消防署の機能に支障があってはならない。今後、建て替えは必要になってくると思われるが、現時点で計画はあるのか。
- (2) 通信の共同運用は始まったばかりだが、消防庁舎の建て替えや非番員招集の増加などの問題もあり、将来を見据えた消防の広域化をなるべく早い段階で検討すべきと思うが、町長の見解は。
- (3) 消防分団には日頃から、地域住民の安全安心の為に最も身近に活動されている。近年はいつ何処で災害が起きるかわからない中、分団詰所は団員の大事な拠点であり、場合によっては住民の緊急的な避難場所にも成り得る。災害時の情報収集は必須で、今はスマートフォンがあれば誰でも情報を得ることができるが、携帯基地局が被災することも想定される。町内公民館にWi-Fiが整備されるが、各消防分団にも整備されればと思うがどうか。

2 ライドシェアについて

一般ドライバーが自家用車を使って乗客を有償で運ぶ「ライドシェア」海外で広がりを見せているなか、日本では過疎地や交通の不便な地域で例外的に認められているが、「白タク行為」にあたり道路運送法で原則禁止になっている。

ライドシェア導入には、安全性やタクシー事業者との問題などもあり、慎重論は強いが、岸田

首相はこの課題に正面から取り組むと表明している。

南北に広い立山町において、高齢者や免許証を返納した方などの移動手段として検討すべきと思うが、町長の見解は。

3 登所・登園の連絡について

朝の送迎時、幼い子どもを車に置き忘れるという痛ましい事故が起こっています。ヒューマンエラーを無くすることは不可能ですが、2重3重のチェック体制があれば、不幸な事故を防げるのではないのでしょうか。

保護者向け連絡アプリを活用できれば、保護者と職員のやりとりがスムーズになって双方の負担軽減にもつながり、登降園の管理ができチェック体制が機能すると思われるが、アプリ導入を検討できないか。

3番 後藤 智文 議員

1 新庁舎建設について

- (1) (仮称)防災センター・児童館が起工式を終え、来年秋には完成する予定だ。次は、新庁舎建設が控えている。1964年に建築されて59年。もう待たないであり、新庁舎建設検討委員会を立ち上げ、今後のスケジュールを決める必要があるのではないか。
- (2) 新庁舎建築はまだ計画されていないが、行政視察を終えて、我が町でも取り入れたらどうかという点について尋ねる。
 - ① 小清水町は、大胆な発想で「ワタシノ」という町民の居場所となる施設として建てた。庁舎ゾーンに加え、町民が気軽に集い、賑わいが生まれるように「にぎわいゾーン」を複合した施設だ。大胆な発想についてどう思うか見解を問う。
 - ② 幕別町の新庁舎建設のきっかけは、築後40年以上経過したことや、住民が利用する福祉課、保健課、子ども課の3課が庁舎とは違うセンターにあり、利便性や住民サービスなど行政効率の低さがあったこと。我が町も今、健康福祉課や保健センターなどは庁舎外にあり、不便を感じている町民もいる。この際、一つ屋根の下で集約し、町民の利便性を高めるべきだと思いが見解を問う。
 - ③ その場合、元気交流ステーションのスペースが空くが、老朽化した建物内にある五百石公民館や立山舟橋商工会に入居してもらうことも考えられると思いが見解を問う。
 - ④ 工夫されている点について、だれもが利用しやすい庁舎とするため、段差をなくす、わかりやすい場所に階段やエレベーターを設ける。このことは、今の庁舎にも当てはまる。執務スペースはオープンフロアとすることで、将来の変化に対応しやすい空間となっていることに対しての見解を問う。
 - ⑤ 建設にあたって町民との合意形成は、住民説明会、広報紙での意見募集、パブリックコメ

ントを実施し、住民説明会は3年間で37回開催されている。町民の意見を反映させることや町民合意を得る努力は大切だと思いが見解を問う。

- ⑥ 免震装置は、1階の下部に建物と地面の間に「免震ゴム」「オイルダンパー」を入れることにより、建物に地震が伝わりにくくなり、地震がきても地面とは別々にゆっくりと揺れる。給水配管などは、地面と繋がっている部分には「免震継ぎ手」を使用している。大地震がいつ起こるかわからない状況の中で、これからの建物には必ず必要になる装置だと思いが見解を問う。

2 町営バスについて

上士幌町を視察して、2点について問う。

- (1) 町営バスのデマンド化で利用実績は伸び、バスの稼働時間と運行回数は減ったのに利用人数は増えた。バスの空き時間を使ってスーパーの貨物配送を行うようになっている。町でもデマンド化への切り替えができないか見解を問う。
- (2) 自動運転バスについて、上士幌町は、高齢者の免許返納促進や運転手の負担軽減、運行コスト削減などを目的に、2017年度から実証実験に取り組んできた。現在レベル2の運行で定期運行しているが、今年度はドライバー不在のレベル4を目指している。国土交通省は補助金を出して自動運転バスを奨励しているが、我が町でも取り組むことができないか見解を問う。

3 酒米による農業所得について

白岩酒造株式会社が立山町に来て数年経つが、立山町産の酒米の生産によって、農家の所得増を図りたいとされていた。令和2年度から取り組まれ、4年が経つ。当初の目的は達成できているのか問う。

4 小学校適正配置について

- (1) これまで3回の小学校適正配置検討審議会が開かれているが、主にどんな意見が出されたのかを問う。
- (2) 少子化はなかなか止められないが、学校統廃合は地域の人々の心よりどこかを失うし、地域の衰退を招く。現状を維持するためにも小規模特認校制度を真剣に考えていくべきではないか。

5 公民館行事にバスを

公民館行事が行われた場合、どうしても交通手段がない人は参加できない状況になる。公民館活動を活発にしようと思えばその解消が求められる。やや大きな行事を行う場合、各地区をバスが巡回するようにならないか見解を問う。

6 下田交差点から下田バイパスへのアクセス道路について

下田バイパス完成から14年。下田交差点から下田バイパスへのアクセス道路が望まれていたが、いまだそのままである。地権者との交渉も進んだと聞くが現在の進捗状況を問う。

7 千垣トンネルについて

トンネルに入った瞬間、ラジオやテレビの電波は途絶えてしまう。大事な情報だった場合、「何だったのか」と考える。立山黒部アルペンルートの一通過点に過ぎないが、観光客にも不愉快な思いをかけてしまう。ラジオやテレビの電波がキャッチできるように整備することを県に働きかけるべきではないか。

4番 澤井峰子 議員

1 物価高騰対策について

「デフレ完全脱却のための総合経済対策」の物価対策として、低所得世帯への支援に非課税世帯一世帯あたりに7万円の給付、そして地域の実情に合わせて自治体が柔軟に活用できる「推奨事業メニュー」が国から示されている。

- (1) 非課税世帯7万円の給付について、早いところで年内給付が可能な自治体もあるが、わが町のスケジュールを伺う。
- (2) 物価高騰対策として、わが町の生活者や事業者への支援策の詳細を伺う。
- (3) 今後、非課税世帯と定額減税の「狭間の世帯」への支援策も国が考えている。12月中旬には方針が固まると言われているが、事前に準備できることがあれば進めて頂き、早急な対応をと考えるが、町の見解を伺う。

(狭間の世帯：非課税世帯や低所得者の子育て世帯、住民税均等割のみ課税世帯、定額減税の恩恵を十分に受けることができないと見込まれる世帯をいう)

2 読解力向上について

読解力向上3ヶ年プロジェクトについて、16名の教員等が福島県相馬市への視察が実施された。

- (1) その視察の内容や参加された先生方の感想を伺う。
- (2) わが町でのリーディングスキルテスト開始から、どのような変化、成果があったかを伺う。
- (3) RSノートの活用は、家庭学習において親子で取り組むことで一層、学力向上につながると考える。保護者にむけたセミナーを開催してはと思うが見解を伺う。

3 町防災訓練について

年に一度の町防災訓練。先日の高野地区で行われた防災訓練は、地域の実情に沿った内容での訓練として実施頂いた。

- (1) 今回の防災訓練の総括を伺う。
- (2) 今後、住民の方とより実践的な訓練となるよう、この町防災訓練は大切な場であると考え

る。開催地の区長や主要な方が運営側として動ける仕組みも重要であると考えてるが見解を伺う。

4 保育士等の就労支援について

令和6年開始の「保育士等就労助成」「保育士等就労継続支援」について、より良い制度にと期待する。

- (1) 施設側から「制度が定まり次第、早急な周知をしてほしい」また「継続支援助成の地域差」を心配する声を頂いた。町の対応を伺う。
- (2) 9月議会以降、就労助成制度への反響を伺う。

5 国民健康保険税条例の改正について

子育て世帯の負担軽減として、国民健康保険加入者が出産した場合、所得割額と均等割額が減額となるが、届出をしなければその恩恵を受けることができない。

- (1) 対象者の方に、もれなく恩恵を受けて頂きたいと思うが、今後どのような周知となるか。
- (2) 妊娠中は何が起こるか分からないなか、その届け出はいつから可能なのか。是非、プッシュ型でなるべく手続きの簡素化をと思うが、町の対応を伺う。

5番 広島秀一 議員

1 役場の敷地内に建設予定の本屋を兼ね備えたコンビニエンスストアの内容について

- (1) コンビニエンスストアの着工とオープンの予定時期は。
- (2) コンビニエンスストアの営業時間は。
- (3) 本屋の広さとどのような種類の本が置かれる予定なのか。
- (4) 経営は誰がされるのか決まっているのか。

2 吉峰のコテージについて

- (1) 令和6年3月15日完成予定となっているが間に合うのか。
- (2) 現在のコテージと新コテージの違いと宿泊料金設定について。
- (3) 運営は誰がされるのか決まっているのでしょうか。
- (4) モンベルが監修を担っているのなら経営もモンベルにしてもらうことはできないのか。

3 豪雨災害の対応について

今年6月28日と7月12日、13日に大変大きな豪雨災害があり復旧復興対策本部が設置され、被災された町民のために関係職員が昼夜を問わず、職務にあたっていることは私だけでなく多くの

皆さんが承知しているところだと思います。

そこで、現在の進捗状況はどうなっているのか担当課長にお伺いいたします。

6番 平井久秋 議員

1 高校再編について

今月6日、県立高校の再編を話し合う教育振興検討会議が、次回の再編基準となる5つの考え方を示した。意見の中で、前回同様の基準、さらに基準を引き上げる声が多数上がったという。次回会合で素案を出すという流れの中で「地域の皆さんの声を聞く場は多くしたい」という知事発言もあり、立山町として、意見を出す大事な局面にきているのではないかと。

2 正職員定数について

町の正職員定数は、類似団体を基本にしていると思うが、他に面積や立地している位置、公共施設数などもあると思う。

- (1) わが町の定数の基本をどのように考えているのか
- (2) 今年のような突発的な災害が発生した中で避難所開設では苦労したと聞く。全町的な災害時に、正職員だけで対応できると考えているのか。
- (3) これらを踏まえ、わが町の定数は適正と考えているのか。

3 自動運転バス導入について

全国的に自動運転バスの実証実験が始まっている中、富山市でも始まった。導入のきっかけは、路線バスの廃止に代わる高齢者の移動手段確保につながることや、トラックやバスの運転手が不足する「2024年問題」である。わが町も例外ではなく、将来を見据え、導入は必然であろう。先進地では、レベル4走行に向けた実験を始めたところもある。研究、調査を始めるべきではないかと。

4 教育について

不登校になっている小中学生が、昨年度までも過去最高を更新した。前年度から2割強の増加だと、同時にいじめの認知件数も、前年度から1割強で増えている。

- (1) 現在までの小中学校の不登校数はどのくらいか。また、前年度からの増減数を伺う。
- (2) これまでの不登校対策で、改善し登校できるようになった事例はどのようなのか。
- (3) 昨年、富山市で中3女子の悲しい出来事の原因の一つにいじめがあったと認識している。この事例の後、児童生徒の心の声を引き出す対応に見直したところがあればどのようなようになったか伺う。

5 有害鳥獣対策について

今年県内でクマの出没が相次いだ。当町でも日中の街中で親子グマが捕獲されている。もはや県全域が出没予想エリア状態であり、対策が急務だ。

- (1) 環境省が「指定管理鳥獣」にクマを追加する検討を始めた。捕獲費用が国の補助対象となり、夜間銃猟やわなによる捕獲も特例として認められる。東北6県と北海道、新潟県による知事会が要望した。出没が多発した立山町から声を出し、富山県も加わればと思うが、いかがか。
- (2) 狩猟の資格を持つ方々も高齢化している。このままでは、クマの繁殖増に対し減っていくばかりだ。資格取得に補助を検討してほしいとの声もあるが、いかがか。
- (3) クマの移動ルートが、河川や河岸段丘の雑木林だと言われている。目撃の多い地帯に監視カメラを設置し、行動を把握するようにできないか。用者への路線情報、PRの強化について伺う。

7番 堀田 努 議員

1 通学路の白線について

- (1) 立山中央小学校から役場までの通学路は、通学のメイン道路であるから、道路の白線、グリーンベルトははっきりと塗装してある。しかしメイン道路につながる東西の道路は、白線が消えているか、削げ落ちて薄くなっている。早く日が暮れるこの頃では、特に、薄暮の時間は運転者から非常に見にくい。雨のころはさらなりである。白線は歩道と車道の境界線であるから、児童生徒に大いに危険にさらしている。道幅も狭いため、早急にしっかりとした塗装を早急に望むが、見解を問う。
- (2) 五百石商店街の道路では歩道の白線が現れたり、なくなったり一貫性がない。また歩道の幅が狭く、側溝に落ちてしまいそうな箇所が多く見受けられる。職員はそういう現実を把握するため、日頃見回りをしているかを問う。

2 部活動の外部委託について

- (1) 1年前令和4年12月の議会で部活動の外部委託についての一般質問をしました。令和5年から7年を改革集中期間として動くとの返答でした。実際外部移行に対策を練って動いてもらっていることは把握しています。現状と、今後の方策について問います。
- (2) 実際滑川市で中学教員の過労死について大きな問題になっています。先の質問にかぶると思いますが、中学校教師の労働環境について、教育委員会の見解を問います。

3 マイナンバーカード使用法の周知について

マイナンバーカードの取得率は全国平均を上回っているが、取得者にちゃんと活用しているかを問うたところ、ほとんどの方が出かけるときは持ち歩いていないとの返答であった。マイナンバーカードは非常にいい政策であり、律儀にちゃんと取得されているので、アフターフォローとして、使用方法の周知を企画してもらいたいが、見解を問う。

4 クリーンセンター展望台の利活用について

晴れた日にクリーンセンターの展望台に行くと、春夏秋冬それぞれ絶景を目の当たりにして感動

する。これを是非立山町の児童生徒に心ゆくまで見てもらいたい。以前から申しているように、富山県以外に住んでいる人はお金を出してこの絶景を見に来ている。町民は生まれた時からこの風景が当たり前に見えることで、他地区の人よりも感激が薄いのだと思う。展望台からの大パノラマを見てこんな素晴らしいところに住んでいるんだと、感動してもらえると確信している。天気のいい日を選んで、各学校でクラス単位での見学の実施をと思うが、見解を問う。

5 各地域の行事を積極的に PR を

コロナ禍もだいぶ収束し、各地区の行事が復活してきた。しかし3年のブランクはあまりにも大きな影響を各地区の行事にあたえた。しかしながらやる気をもって開催にあたっての打ち合わせをし、実行する。こんな気高いことはない。とかく空き家問題、人口問題を取りざたされる地区でも、このように一生懸命地区のため、子供たちのために活動している町内会、団体が多くある。町もこの活動の意義を十分に理解して見学してもらいたい。そして、メディアNET3でも今の状況で何を町民に広く訴えるべきかを理解して番組制作をしてほしい。これについての見解を問う。

8番 村上紀義 議員

1 災害・防災対策

(1) 先の豪雨災害の教訓から突発的な災害が発生した時、情報を得ることで命を守る行動に繋がると思う。町は速やかに正確な情報を町民に速達し、町民も確実な情報を収集する意識を身に備えることが重要だ。

- ① 本人判断もあるが、正確な情報伝達手段を確保することが重要だ。町は「情報難民ゼロ」を目指す必要があると思うが。
- ② 町は正確な情報を収集するネット体制が構築されていると思うが。職員は日常的に災害に対する心構えと、町の地形と地域を知る実践訓練も必要と思うが。
- ③ 被災者対応は被災者の立場に立って速やかに行うことが大事だ。今回の豪雨災害に於ける被災申請から被災認定調査及びり災証明書の交付に至る工程内容と対象戸数は。

(2) 災害時要配慮者を守る支援について

厚労省は個別避難計画の作成を市町村の努力義務とした。「災害時要援護者」は災害時に特別な配慮が必要な方々を念頭に、災害時でも支援者がいれば適切に行動出来る人とし、個別避難計画の作成と、平常時から対応できる防災の仕組みづくりを求めるとしているが。

- ① 災害弱者を作らない安全安心な防災の体制づくりが求められているが防災と福祉の連携はどのように図られていくのか。
- ② 支援者名簿・個別計画を活かした避難訓練が重要だ。地区住民や町民が主体として行動できるものになっているのか。

2 小学校のプール

3 小学校プールで水泳授業が出来ず、民間施設でインストラクターによる水泳授業が行われている。

- (1) 町内小学校には、故障や安全面で使用できない学校プールがある。民間施設を利用してプール学習が行われているが、今後の学校プールと水泳教育の在り方を伺う。
 - ① 各学校のプールの老朽化が進んでいる。施設の現状は。今後必要とされる維持管理及び費用についての予測は。
 - ② 教員の負担感、近年の気候変動等による屋外水泳授業のあり方と子供の満足感は。
- (2) 老朽化が著しく使用できない高野小学校プール。平成30年まで使用していたがコロナ禍と相重なり、令和3年から常願寺ハイツでプール学習をしている。放置されているプール及び関連施設。安全面から解体し、敷地整備をしての有効活用について。

3 福祉対策

- (1) 認知症と共に生きる地域づくりについて
2025年には約730万人の5人に1人になると推計される認知症。誰にとっても無縁ではない。認知症になっても尊厳を守って、安心して暮らせる社会づくりが急務とし、地域の実情に合わせた計画づくりや、本人や家族の声を聴くことが求められている。
 - ① 共生社会の実現（推進）に向けて町の取組は。
- (2) がん予防について
本年3月第4期がん基本計画が閣議決定された。誰一人取り残さないがん対策を推進し、がんの克服を目指す。」とし、「がん予防」「がん医療」「がんと共生」を全体目標としている。
 - ① 据えられた3本柱に、町としてがん予防の具体的な取り組みについて伺う。

4 人口減対策

将来を担う若者の人口流失が加速していると聞く。喫緊の課題と思うが。

- (1) 少子・高齢化が一段と進行し、町も人口減少傾向にあり、10年間で2575人の減だ。すぐに人口増加を図ることは無理と思うが、町の魅力の再発見など、減少数の緩和に努めることも大切だ。また町への愛着心をもって「まちづくり」に取り組む、住民意識の理解と意識の高揚も今後の課題では。
- (2) 少子化と相絡み、若年女性の減少が進んでいる。平成25年から令和5年の間で、町全体の人口減は10%。20歳から39歳までの町の女性人口は26%も減少しているが、これらの数値をどのように捉えているか。また減少を抑制する手立ては進んでいるのか。